

京都市交通安全対策会議（概要）

- 1 開催日時 平成24年3月13日（火）午後4時30分～5時15分
- 2 会場 京都市役所本庁舎 E・F会議室
- 3 議事等 第9次京都市交通安全計画について

記

<市長あいさつ>

◎門川京都市長

皆様の御協力を得て、3月11日の京都マラソンは大成功に終わった。交通渋滞などもほとんど発生しなかったと聞いている。東日本大震災から1年が経過する日に、鎮魂と復興の願いを込めたマラソンが実施できたことに御礼を申し上げる。

（市域の交通事故概況に触れて）高齢者及び自転車の事故について、対策が重要であると考えている。

本日、審議いただく交通安全計画をもとに、各位の引き続き御尽力をお願いしたい。

<計画案について事務局より説明>

◎くらし安全推進課

（パワーポイント資料を用いて概要及び市民意見募集の結果等について説明）

◎京都府警察本部 川村交通部次長（交通部長代理）

府域で見ると発生件数・負傷者数は7年連続で減少している。しかし、死者は微増しているため、今年は何とか80人以下を目標として取り組んでいる。23年の府域の死者のうち102人中47人が市域での死者であることから、市域での取り組みが特に重要であると考えている。特に伏見、南、右京区で死亡事故が多発しており、西南方向の取組をしっかりとしなければならない。

府域で死者の半数が高齢者。市域では半数を超えてきている。高齢者対策は最重点と考えており、年初から民生委員の協力などを得て、交通事故遺族の手記をリーフレットにまとめたものなどを活用し、高齢者の家庭訪問活動を強化している。

自転車事故についても、府域の約3,000件の自転車関係事故のうち2,160件が市域内で発生しており、自転車については特に市域での取り組みが重要である。自転車に関する苦情・要望が多いため、街頭での指導取締りを強化し、昨年から33件の違反を検挙している。

◎京都府 田中安心・安全まちづくり推進課長（府民生活部副部長代理）

京都府では上位計画として8月に作成した交通安全計画において、27年までに死者61人以下、死傷者14,000人以下を目指している。

府域の事故の約6割が市域内。市域を抑えれば府も抑えられるということから、府市の協調が必要である。

門川市長のあいさつにもあったとおり、高齢者・自転車がキーワードになる。重点的に対策に取り組んでいく。

今まで以上に府と市で連携して取り組んでまいりたい。

<質疑応答>

◎水田交通政策監

国や府の上位計画という一定の縛りのある中、「歩くまち・京都」をしっかりと位置付けてもらえた。

都市計画局でも、毎月、関係機関で交通政策会議を開いているが、そこで交通安全についても、横の連携をしっかりと図っていきたい。

この1年、府・府警等でも自転車安全対策について大きく変化してきた。この計画案はこの動きにも対応していただいている。

<計画案の決定について>

(拍手により承認)

--終了--